

## 姫路赤十字病院、看護専門学校、子供たちとハロウィン

すっかり日本のイベントに定着した、欧米のお祭りハロウィン。10月30日(火)、かぼちゃのマントを羽織ったり、魔法使いの帽子をかぶったり、思い思いの仮装した姫路赤十字病院保育所の園児約20人が、姫路赤十字看護専門学校の学生たちのもとへやってきました。

興味深そうに学校内を探索する子どもや、不安で泣き出す子供の姿も。看護学生の1年生は小児看護学の授業の一環として、抱っこしたり、遊んだり子ども達と生で触れ合うことができ、大きな学びとなりました。

普段、子ども達と接する機会の少ない看護学生達にとって貴重な体験になったようです。また、同校の小児病棟訪問班の学生たちは、ハロウィンをテーマにしたお楽しみ会を開催しました。姫路赤十字病院の小児病棟と保育所を訪問し、自作の劇を披露。お土産も全て学生たちの手作りです。講義や演習で忙しい中で、放課後を利用して準備を進めていました。1年生の佐伯ひかるさんは「子ども達が楽しんでくれることで、私たちも元気をもらっています。」と、笑顔で話していました。



お菓子くれなきゃイタズラするよ

## 姫路赤十字看護専門学校、戴帽式



キャンドルを手に、気持ちを新たにする学生

10月23日(火)、姫路赤十字看護専門学校の1年生42人が戴帽式を迎えました。看護学生が初めてナースキャップを身に付ける戴帽式は、日本では大正時代から行われていたようですが、作業しにくい、衛生面の問題などから全国的にナースキャップを廃止する病院も多いのが現実です。入学して半年、1年生は慣れない環境で講義や臨地実習、ボランティア活動などを経験し、少しずつ看護学生らしくなってきました。戴帽式では多くのご来賓、保護者の皆さま、姫路赤十字病院・学校職員、2・3年生の学生の見守る中、真っ白なナースキャップを頂いた学生たちは、少し大人びて見えました。

1年生代表の学生は、「かけがえない人の命と人生に携わる看護師という職業の難しさを痛感する毎日です。それでも患者に寄り添い、その人らしさを尊重した関わりのできる思いやりのある看護師になりたい」と力強く宣誓しました。その純粋な気持ちを3年間忘れることなく持ち続け、多少のことでは折れない強い志を持った看護師になってくれるよう祈るばかりです。

## 講習のご案内 ～健康で安全な生活を送る知識と技術を～

冬がやってきました。風邪も心配な季節です。うがい・手洗いを忘れずに、自分自身の健康管理と予防に努めてください。

安心して毎日を過ごせるように、急な病気やケガを手当する正しい基礎知識と技術を身につけてみませんか?日本赤十字社は、皆さまが健康で安全な生活を送るためのお手伝いをします。講習会場は日本赤十字社兵庫県支部です。詳細及びその他の講習についてはホームページで。

内容		開催日	
救急法基礎講習		平成25年 2月 2日(土)	
救急法救急員養成講習(2日間)		平成25年 2月 23日(土) 24日(日)	
救急法基礎・救急員養成講習(セット講習 3日間)		平成25年 2月 9日(土) 10日(日) 11日(月祝) 平成25年 3月 2日(土) 3日(日) 9日(土)	
幼児安全法支援員養成講習(3日間)		平成25年 1月 20日(日) 26日(土) 27日(日)	
健康生活支援講習(3日間)		平成25年 2月 14日(木) 21日(木) 28日(木)	
科目別講習	幼児安全法	こどもに起こりやすい事故の予防と手当について	平成25年 3月 12日(火) 10:00~12:00
	救急法	こどもの一次救命処置	平成25年 3月 12日(火) 13:00~15:00
	救急法	骨折の手当と搬送法	平成25年 3月 12日(火) 15:30~17:30

# ひょうごの赤十字

2012 DECEMBER 12月

- 兵庫県日赤有功会の台湾旅行
- 中播磨ふれあいフェスティバル
- 近畿府県合同防災訓練
- 多可赤十字病院「第3回病院フェスタ」
- 姫路赤十字病院、看護専門学校、子供たちとハロウィン
- 姫路赤十字看護専門学校、戴帽式
- 講習のご案内

 日本赤十字社 兵庫県支部  
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号  
TEL.(078)241-9889 FAX.(078)241-6990  
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>

赤十字 兵庫

検索



## 兵庫県日赤有功会の台湾旅行

～台湾赤十字組織との繋がりを深めて～

兵庫県日赤有功会主催の台湾旅行が、10月30日(火)から11月2日(金)までの3泊4日、22人の参加で行われました。初日は日本の新幹線を採用した台湾新幹線で高雄へ。「龍の口から入り、虎の口から出てくると災いが消える」と言われる竜虎塔で有名な蓮池潭(れんちたん)を観光。夕食後は夜景を楽しみました。

2日目、高雄市内や台南市内の赤坂桜(せっかんろう)などを観光し、再び新幹線に乗り台北市内へと移動。

3日目は、宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」のモチーフとなった九份を観光し、午後からは台湾赤十字組織を訪問。東日本大震災での台湾赤十字組織の日本への支援活動のビデオを鑑賞し、感銘を受け涙ぐむ有功会員の姿も。その後それぞれお礼の言葉を述べられました。

有功会員の方からは「今回の旅行は、台湾を観光することも十分楽しめたが、台湾赤十字組織を訪問し、赤十字の世界的な繋がりを、これだけ海外から東日本大震災への支援を受けていることを実感でき、大変有意義だった」という声も聞かれました。また参加者の皆さん同士とても親密な時間を持つことができ、本当に心に残る旅行となりました。



台湾赤十字組織の皆さまと一緒に

## 中播磨ふれあいフェスティバル

～姫路城を前に、みんなで赤十字活動のPR～

11月10日(土)、11日(日)、大手前公園・家老屋敷跡公園(姫路市)で、兵庫県のおまつり「中播磨ふれあいフェスティバル」が開催されました。

当支部は毎年この兵庫県主催のおまつりに、地域奉仕団、地区・分区の皆さんと共に参加。今回も姫路市赤十字奉仕団と姫路市地区のご協力のもと、赤十字活動を地域の方々にもっと知っていただくようPRを行いました。

当日は「姫路食博2012」が同時開催されていたこともあり、大勢の来場者で賑わいました。赤十字のブースでは、非常食(アルファ化米の五目ご飯)の試食、スーパーボールすくい、東日本大震災での救護活動と支援活動の紹介パネルや救護物資の展示を行いました。非常食は「お湯を入れるだけなのに、こんなに美味しいなんて」と、毎回とても好評を得ています。また、スーパーボールすくいは子どもたちに大人気で、服が濡れることなどお構いなしに、水に浮かぶ小さなボールに果敢に挑みます。

一日目は快晴、二日目は予報通りの大雨。それでも多くの方々にお越しいただき、子供たちの「楽しかった」という笑顔を見ることもでき、今回も地域の皆さまとふれあうことのできたイベントとなりました。



姫路市赤十字奉仕団の皆さんも大忙し



紙を破らずに上手にすくえるかな

## 近畿府県合同防災訓練

～兵庫県に大地震発生。他機関と共に負傷者を救護～

10月28日(日)、神戸空港島をメイン会場に、近畿2府4県と福井、三重、徳島県による「近畿府県合同防災訓練」が実施され、赤十字、消防、自衛隊、学校、企業など約180機関、約3,000人が参加しました。

和歌山県潮岬沖を震源とするM9の地震が発生。神戸市内では震度6を観測し、家屋の倒壊や火災、大規模な交通障害、津波など、兵庫県南部を中心に各地で大きな被害が出たという想定で訓練が始まりました。

赤十字では大型エアートント等を立上げ医療救護所を開設。兵庫県支部から姫路、多可、柏原、神戸の各赤十字病院、大阪府支部から高槻赤十字病院の救護班が出動し、医療救護活動を展開。トリアージ(傷病者の重症度、緊急性の選別)の後、次々と運ばれてくる傷病者の手当てを行います。朝からの雨は訓練開始と共に激しさを増し、ずぶ濡れになりながらの救護活動となりました。

この訓練を通して、他府県、他機関・団体との連携の重要性と、今回の目的のひとつである「災害時における防災関連機関相互の連携」を再確認することができました。

また、県内の6市町でも住民参加型訓練が行われており、当支部では空港島と湊川公園(神戸市兵庫区)の2会場で、東日本大震災での赤十字の医療救護や支援活動を紹介するパネル展示も行いました。



軽傷から重症まで、様々な傷病者がどんどん救護所に送りこまれてきます

## 多可赤十字病院「第3回病院フェスタ」

～タカレンジャーもやってきた!地域の皆さまとの楽しいふれあいの一日～



手術室でときどき縫合体験



タカレンジャー・グリーンも一緒に記念撮影

10月27日(土)、多可赤十字病院で「第3回病院フェスタ」を開催。地元多可町の皆さまをはじめ、近隣施設・地域から約500人の皆さまに参加いただきました。

今年のテーマは「多可町の地域医療・介護を考えよう～明るい未来に向けて～」。4月に新設した当院地域医療支援センターの機能や役割を知っていただくとともに、これからの多可町にとっての地域医療の大切さを皆さまと一緒に考え、交流を図りました。

多可町のご当地ヒーロー『タカレンジャー』も登場。子供たちも大喜びで、イベント全体を盛り上げました。

院内には、遊びながら楽しくリハビリを行なう『遊びリテーション』や各部署の取り組みを紹介する『施設発表コーナー』、お菓子を使った『お薬分包体験コーナー』、普段では絶対体験できない手術室での『縫合体験』など、たくさんのイベントを通じて多可赤十字病院の役割や医療の大切さをご理解いただけたと思います。

当日、地域の皆さまから提供して頂いたバザーの売上額と募金の合計167,091円は、東日本大震災の義援金として、被災者の皆さんへ届けさせていただきます。たくさんのご協力、ありがとうございました。